

大内まちづくり協議会だより



vol. 9

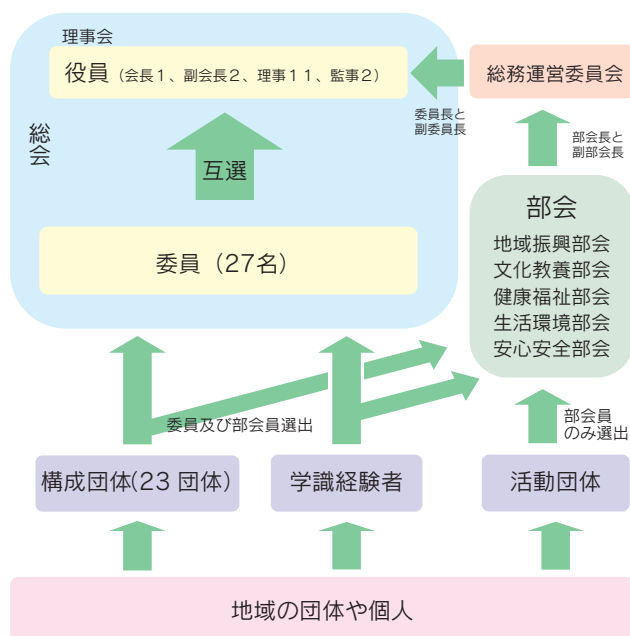
2015年3月

発行：大内まちづくり協議会

〒753-0221 山口市大内矢田北一丁目10番11号（大内地域交流センター内）TEL：050-1265-7063 FAX：083-927-0473



大内まちづくり協議会の構成



大内まちづくり協議会について

■協議会の概要

平成20年12月19日に制定された「山口市協働のまちづくり条例」に基づき地域「ミニコミュニティ」を包括する組織として、平成21年6月に「大内まちづくり協議会」が発足しました。これ以前には「大内地区まちづくり推進協議会」（平成元年設置）がありました。

協議会は、大内連合自治会や大内地区社会福祉協議会、大内商工業振興会、小中学校PTAなどの大内地区で活動する23団体で構成されています。

■事業の概要

大内まちづくり計画（平成23～27年度）に基づいて、5つの部会が中心となる事業を企画、実施しています。

平成26年度は、山口市からの交付金1,603万6千円をもとに37の事業を行っています。

次の大内まちづくり計画を作成中です。 これまでの取り組みと分かったことをお知らせします。

これまでの大内まちづくり協議会だよりでもお知らせしてきましたとおり、大内まちづくり協議会では次の大内まちづくり計画（平成28年度から平成32年度）の策定に向けた取り組みを進めています。

この計画は、大内地区を住みやすく活力ある地域にしていくなために、これからの5年間我々住民自身で取り組んでいくことを取りまとめるものです。

平成26年度は、大内まちづくり計画策定委員会（会長：瀧川勉）を中心に、これまでの計画の点検とともに、いまの大内がどのような状況にあるのかを把握するための作業を進めてきました。そのため住民の皆さんや子ども達、地域で活動している団体へのアンケート調査も行いました。
ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。
以下にこれまでの作業の中で明らかになったことをお伝えします。

事業を立案し行う際に気をつけること （一次計画を振り返って）

これまでの事業の進め方を振り返ってみると、事業を行うことに全力を傾けるあまり、「何のために事業をやっているのか」ということがあいまいになってしまったケースもあつたことから、事業を行う際には、目的の達成や課題の解決にとれくらの効果があつた（ある）のかを常に意識する必要があることを再確認しました。

目的があいまいなまま事業を続けていると参加者の満足感やスタッフの達成感が得られないことから、事業に関わる人のやる気も失せてしまうことが懸念されます。

スタッフの負担を軽減するために、今後の事業の企画・実施に際しては、「これまでやってきたからやる」という姿勢ではなく、常に見直し改善していく必要があること、そのための具体的な手段を提案しました。



大内地区は人口が増えている。しかし、身近なコミュニティでは人口が減り、高齢化が進んでいるところもある。（統計から見た現状）

国勢調査によると大内地区の人口は増加傾向にあります。

平成22年の人口数は22,158人と小郡地区に次いで多くなっています。

その内、年少人口は3,826人と市内で最も多く、一方老年人口は3,924人と小郡地区に次いで多くなっています。

それに伴い子どもがいる核家族世帯も増えており、18歳未満の子どもがいる核家族世帯は2,269世帯（18歳未満の子どものいる総世帯数の86.4%）、その内6歳未満の子どものいる核家族世帯は961世帯（6歳未満の子どものいる総世帯数の87.8%）と小郡地区に次いで2番目に多くなっています。

また、高齢者の夫婦のみ世帯や単独世帯の数も増えており、夫婦のみ世帯は697世帯と小郡地区に次いで多く、単独世帯は587世帯と、小郡地区、湯田地区に次いで3番目に多くなっています。

一方で、地区全体の人口が増えているのに対し、「コミュニティごと」にみると比較的早くから宅地開発をされた住宅団地を中心に人口が減少しているところもあります。

こうしたコミュニティは高齢者人口が大きく増加し、その総世帯数に占める割合や高齢者の夫婦のみ世帯の割合、さらには単独世帯の割合が高い傾向にあります。





住民は大内地区にどんな印象を持っているのか？（アンケート調査から見た現状）

① 大内地区は住みやすい。

アンケート調査によると、大内地区を住みやすいと感じている住民が多いことが分かりました。一般住民を対象とした郵送による調査では、92.8%の住民が住みやすい又はどちらかといえば住みやすいと感じています。

子ども達（小学5年生と中学2年生）を対象にしたアンケート調査によると、「いま住んでいる地域が好きだ」は88.6%（一般住民は85.4%）、「地域にいて不便である」は15.4%（不便であるという回答、一般住民は19.1%）、「いまの生活に満足しているか」は88%（一般住民は80.1%）と子ども達のほうが大内地区に対しさらに良い印象を持っていることが伺えました。

「地域のために役に立ちたいかや」今後この地域に住み続けたいか」を問う質問でも、それぞれ67.4%（一般住民56.4%）、80.7%（一般住民76.5%）と一般住民に比べ前向きな意見が多くなっています。

② 会話のできる近所づきあいが地域への愛着を生む。

「留守にするときは、用が頼める」「あいさつだけでなく、日常生活や地域づくりに関する情報交換もしている」「顔をあわせれば、あつちへつはあつち」と近所づきあいの関係性が深いほど、「いま住んでいる地域が好きだ」や「今後この地域に住み続けたい」という質問に対し肯定的な回答の割合が高いという関係性がみられました。

③ 子どもが育つのによい環境が地域への愛着を生む。

「子どもが健全に育成されているか」と「育児環境が整っているか」に肯定的な人は、「いま住んでいる地域が好きだ」、「今後この地域に住み続けたい」の各項目についても肯定的な回答の割合が高いという関係性がみられました。

地域課題解決のために取り組んでいく必要のある事業を聞いた質問では、すべての年代において「児童生徒の通学時の安全確保」対策が最も高くなっており、大内っ子まもり隊等の活動に大きな支持と期待があることが読みとれました。



この他、このたびのアンケート調査等で明らかになったことは、これからの大内まちづくり協議会だよりで随時お知らせしていきます。

また、これまでの調査で分かったことを踏まえ、平成27年度は実際に計画を作っていくこととなります。

計画案の作成に当たっては、より多くの皆さんに参加していただきたいことから、誰でも気軽に参加でき、意見の言える（出せる）方法（ワークショップ等）を検討中です。

詳細が決まりましたら、あらためてお知らせさせていただきます。皆さんの参加をお待ちしております。（策定委員会の委員を募集します。詳細は裏面）

大内まちづくり計画策定委員会の委員を募集します!

大内まちづくり計画策定委員になって、これからの大内のことを一緒に考えてみませんか?

- ・ **活動期間** 平成27年4月から平成28年3月末まで
- ・ **活動内容** 住民対象のワークショップへの参加、計画案の作成等
- ・ **募集人数** 若干名（応募多数の場合、委員会構成等を考慮し選考）
- ・ **応募条件** 18歳以上。夜（概ね19時から）または土日に行う会議等に出席できること
- ・ **応募方法** 住所、氏名、年齢、電話番号、地域づくりに対する夢（400字以内）を、郵送、持参、FAX、メールのいずれかの方法で協議会事務局まで提出のこと。（様式自由）
- ・ **募集期限** 3月31日（火） 16時まで

写真コンテストの作品を展示しています。

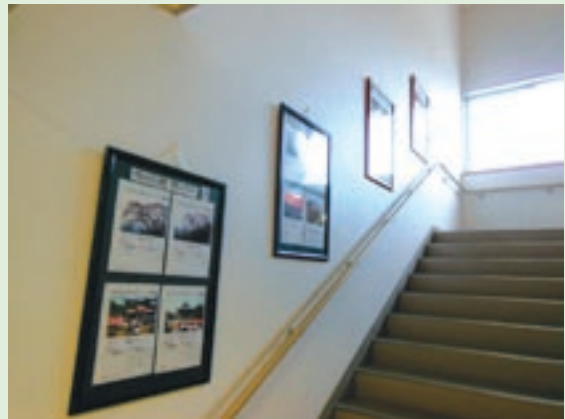
大内まちづくり協議会で募集してきた、大内の自慢できる風景や行事（春・夏・秋）の写真が大内地域交流センター（西側階段）で展示しています。

大内の自然や史跡、行事を写した力作ばかりです。

大内に住み、大内を良く知るカメラマンならではの最も輝く瞬間を写しとった作品に、あらためて大内のすばらしさを発見できる良い機会になるのではないかと思います。

是非、足を運んでみられてはいかがでしょうか。

なお、現在冬の作品を募集中【4月10日（金）締め切り】です。ご応募お待ちしております。詳細は、大内まちづくり協議会のホームページをご覧ください。



編集後記

益田市からの視察

2月5日に益田市益田地区の皆さんが大内まちづくり協議会の視察に来られました。

メンバーは、益田地区地域自治組織設立準備会の委員10名の皆さんです。

視察の目的は、これから市内の既存公民館（地域振興センター）単位に、新たな地域自治組織を立ち上げるに当たり、組織の在り方、規約、構成員、運営方法などについて、先進地でもあり、人口も多く、歴史的な繋がり（大内氏と益田氏）が深い、大内地区の現状を調査するということでした。

2時間にわたり、真剣で熱心な質問や議論で盛り上がることも、こちらも改めて自らを考えるよい機会になりました。

